

司会・戸井田 敦子書記

記録・吉高 路

参加数・13名

資料・2022年度2月号『世の光』 「時代の転換点に立つて」

✿祈り・司会者

✿チェックイン(この場にいることの確認) 参加者の自己紹介&司会者から皆さんへの問い → 「今まで女性連合、女性会の活動で良かったこと、嬉しかったこと、またもう一度やりたいことを短く分かち合って欲しい」

・当時の教会では、婦人連合(現女性連合)に加盟していたが、女性会はなくなっていて、女性会で何かをするという事はなかったが、「世の光」は個人で読み、祈祷週間の事などは女性たちと話し合い、女性も男性も関わりながら教会全体で行っていた。しかし婦人連合に加盟しているのにこのままで良いのかと思いついて、婦人連合総会に参加した。そのうち地方連合や女性連合での様々な働きを担い、自分にとって大切な経験をさせてもらう中で、転換期に検討チームのメンバーになったこと、これも神さまの導きとして受け止めている。一日一日神さまが今を生かしてくださり、すべて整えてくださっていると実感している。繋がりを与えられて感謝。

・2000年にバプテスマを受けて今に至る。良かったことは、実行委員になったこと、とても良かった。忙しかったが女性大会を盛り上げようと、実行委員で同じTシャツも作り、一つとなって奉仕ができた良い経験となった。今後、皆で集まっていくこともコロナなどで難しくしかもわからないが、集まったり、一つになって奉仕をしたりと言うことが今後もできたらと思う。

・教会だけではなく、色々な先輩に色々教えてもらいながら過ごしてきたこと感謝。女性大会には距離的に参加できなかったが、このように zoom では参加できるようになり、女性連合に関わり、繋がる事ができ感謝。

・30数年前に、結婚し夫が牧師だったので初めて赴任した教会がハチマキをして祈祷週間のアピールをするような熱心な教会だったので、天城の総会へは必ず参加していた。印象に残っているのは、天城の体育館で地方連合ごとに集まって何かを作る作業をしたことで、地方連合の方がたと仲良くなれて、天城の3日間は気持ち緩やかに過ごせことはとても嬉しかった。宣教師の方がたがいた時代だったので、宣教師の素晴らしい讚美からパワーをもらえ、また1年頑張ろうと力をもらい天城の山を下りた。その繰り返しだった。今役員として歩んでいるが、私で良いのかと思いついての歩みだが、機構改革の中にあるが、これからも楽しい女性連合になれば良いと願いと祈りを持っている。

・アメリカで洗礼を受けた。アメリカの教会は、女性たちのネットワークとエンパワーメ

ントの場となっていることは、知識として知っていた。日本に帰り、バプテスト教会にであり、そこは祈祷週間献金の目標の100分の1は、私たちの教会で捧げる。というぐらい頑張っておりとあらゆる事をしながら捧げていた教会だった。当時、一般社会では、男性が牛耳っているが、教会では女性たちが頑張っており捧げていた。このことから女性たちはエンパワーメントされていたのではと思った。9条Tシャツを全世界に無料で配っているが、バプテストの女性たちのカンパによってサポートしてもらっていること感謝。教会では女性連合や連盟からの発送物が情報が入ってこず困っている。女性連合の情報は、ホームページで確認している。

・天城での女性大会で祈りのカードを交換し祈り合った方と今日再会でき嬉しい。天城の大会では、皆が霊的に燃やされた。知らない人とも同じ部屋で語り祈り合う事ができすぐに親しくなれた。そんな繋がりが嬉しい。いま、教会でも地方連合でも役員になり手が無い。若い人たちも忙しく教会に来るのがやっとなという状況で、時間のある人がやるしかない状況。女性連合から届く祈祷週間、奨学金献金、NCCなど礼拝で捧げてもらえるようにしている。バザーはできないが、ミニバザーを続けながら様々な箇所に献金としてすべて捧げている。

・女性連合の働きで沖縄(命どう宝)の日、小羊会の働きが大切だと思っている。連合の一小羊会の委員をしている。子どもの頃のサマースクールの思い出があり、自分の子どもも教会付属の幼稚園に入れたかったし、自分も教会に導かれたと思っている。後継者育成のため、教会に繋がれる場を大切に作ってあげたいと思う。沖縄のこと、知らないでいたことを直視できた機会でもあった。これからも大切にしたい。前回の福岡大会の活気がすごかった。皆がワクワクしながら集まった。顔を合わせて集まったこと感謝だった。

・後継者のことを思う時、今回一緒に参加している方も小学生の頃教会学校の生徒だった。後継者は、人数は少ないがでも確実に育っている。必ず育っていくと信じている。これまで女性連合の働きをいろいろ担ってきたが、自分が30代の頃、50~70代の方がパワーがあり、様々な働きを生み出し世界祈祷献金をしていたし、そのことを当然することとして受け止めていた。教会生活や信仰のことなどそこを通して教えられ、今があると思っている。印象に残っているのは、地方連合女性会一泊修養会で村松直美さんに女性連合の話をしてもらったり、『世の光』キャラバンで色々話しを聞き、女性連合や地方連合がとても身近になったと思う。それはとても楽しかった。教会を通して地方連合を知ること、地方連合を通して女性連合を知ることができた。

・2006年にバプテスマを受けた。子どもが小さい頃は、奉仕をいっていくのもとても大変だったが、子どもの手が離れ、何か神さまのご用とする仕事がしたいと祈る中で、女性連合のスタッフとして働くようになった。それまでは、女性連合や女性会の事をよく分からない状態だった。みなさんの話を聞きながら、天城山荘などの体験を通して、つながる喜びを感じているのだと思った。これからもその様な体験する機会を多く作る必要があるのだと思う。女性連合を我がこととしてもらうには、顔の見える関係になることが大事なのだろう。

日本の人口が減っている中で教会の人数も減るのは必然的な事。これまでやっていた活動

も減らす必要があると思う。そうでないと、喜びが生まれなくなる。活動の見直しが重要。各教会でコロナも有りなかなか例会ができないと思うので、女性連合が主催して zoom で『世の光』を読む会をしたら。何も準備せずとも参加できるような、『世の光』さえ持っていれば参加できるように敷居を低くして、一緒に読むことでエンパワーされていくのでは。ぜひ、具体化して欲しい。

・女性連合も連盟も、今勢いがなくなり火が消えそうだけど完全に消えたらまた火を起こすのは大変。消さずにいきたい。どんなに小さくても火がついていたら燃え上がるときがくると思う。女性連合のキャッチフレーズを!「愛される女性連合」「愛される事務局スタッフ」「愛される役員会」を意識して楽しんでいけばいいのではないかな。

・女性連合のスタッフとしては働いているが、女性連合に関わるようになったのが13年ぐらいのこと。ここで仕事をしていなかったら、女性連合や女性会という事に意識がなかったかもしれない。女性連合総会も女性会の中心の人が行くものと思っていたが、事務局として総会に行ったとき、総会で皆が賛成の挙手をするとき、皆さんがピシッとまっすぐに手を挙げている姿に凄いなと思った。もっと天城での総会にも参加したかったと思う。福岡大会が楽しみ。スタッフをしていて皆さんに祈っていただいていること感謝。祈られている事を知り、自分もそうしていかなければと思った。コロナの中で、新しい方に女性連合の働きについて伝えていくのが難しく感じるが繋がりについてどうにかして伝えていきたい。全国発送について、開けたくなるような封書にしていきたい。

・バプテスマを受けて来年で50年になる。女性連合の働きで世界を知ることができた。日常は、自分の生活に埋没してしまったり、新聞を読むことぐらいしかないが、女性連合に関わったり、宣教師の働きを知ることで、ものの見方を学んできたことはとても大きな事だと思っている。女性連合の独自の働きとして浅見先生の時代から戦争というものに対してもきちっと取り組んできた。この働きがなかったら、宣教師は送るのも、力のある者が伝えていくということになっていたのでは。共に生きることや現地から発信したものを受け取る大事さを女性連合から受けてきたと思う。今は、あり得ない事だが、世界祈祷週間の為のバザーで夜中まで必死でケーキを焼いたりいろいろしてきた。大変だったが嬉しかったし開放感もあった。教会ならではの濃密なつながり方をして子育て中も助けてもらったりしながら歩んでくれたこと感謝だった。

・いくつかの教会を経験しているが、どこに行っても女性会では「世の光」を用いて学んでいたこと、そこから世界について学び自分のこととして考えて行くことの大事さを知った。知ることは、とてもきついことでもあるが、知っていかなければならない私たちの責任なのだと思う。

司会者・機構改革の中で、手放さなければならないことがあるのだが、皆さんの話を聞いていて良かったこと、もう一度やりたいことが、これからも捨ててはいけないもの、手放してはいけないものなのだろうと思った。『世の光』2月号の「時代の転換点に立って」を書いて

たが、これまでと同じものを持っていては、お金も人も回らない。女性連合が女性連合とたらしめているものは何か。私たちが大切にし、願い求め女性連合の交わりの中で育ててきたものは何か。それを考え、残していく。それが、女性連合の根幹なのではないかと考えた。

教会がエンパワーの場所だった。舅、姑を抱えつつ、教会の皆と祈り宣教師を送ってきた。その頃は、それが女性たちのエンパワーメントされる場だったと思う。形は変わると思うが、これからも女性たちのエンパワーメントは外せないだろう。

情報、は大事。女性連合を通して、知らなかったことを知ることができた。世界を知った。ものの見方、視野を広げられた、育てられた。情報は、欠くことができない。

次へ繋げる、「後継者は、育っている」と言う言葉に励まされた。現在、少子化、子どもたちがいない状況だが、これまでやってきたことが実際に女性会を担ってくださるまでになっっている実りを見せていただいていること嬉しい。

交わり 顔の見える繋がり、女性連合の交わりは、それを大事にしてきた。『世の光』キャラバンの活動は、大きかったのだなと思った。『世の光』が身近になったり、作り手の顔が見えることは、大切だし読み手の意識も変わる。

4つほどが今日出されたキーワードで女性連合にとって大事な事になっていくのでは。

❖(問い) 女性会の実り(次世代育成)、小羊会、情報と交わり、「世の光」、これからどうしていったら活動が豊かになっていくか、アイデアはないか。

・zoomで『世の光』を読む会の補足だが、女性会の人数が少なく例会ができていない人たちが、『世の光』さえ持っていれば準備していなくても、全国の方がたと繋がり参加できるような場所作り。ハードルをとにかく低くすること。働きを小さくして、興味を持ってもらうことに重点を置いていけば良いのでは。とにかく継続していくことが大事ではないか。ただ、役員や実行委員は、呼びかけになるのは大変なので、女性連合から中心になってくださる人を募集したら良いのでは。「女性連合を助けてください」と、たまものの宝を持っている方を探したら。

・また、実行委員になって負担は増えたけど、良かった。と思えるような活動に。仕組み作りが必要なのでは。

・実行委員もこれまでやってきたような事を同じように行うのは難しいだろうと思う。多くの方が仕事を持っていることで、3日休むのは大変なこと。なり手がいないだろうと思う。天城山荘にはいけない、いける人をお願いするしかない、と言う形でこれまで来た。でも、引き受けたら良い出会いがあり、女性連合の事を知ることができたし良かったと思うが、それが重荷になっている人もいることを覚えない。総会、大会をどうしていったら良いのか、考えなければならない。

・地方にいと、天城山荘は遠かった。総会もオンラインでするからと呼びかけたら、参加できるのではないかと思う。

・女性連合に関心を持ってもらう。色々な人に協力してもらう。皆が参加できるようになるのであれば、何でも用いていったら良いのだろ。協力も募っていったらいい。AI を若い人は普通に用いながら暮らしているが、そのことについても学んでいく。

・「できない」を言えるようになることも大切。それが言えない組織は異常組織なのではないか。やる気と信仰は違うのでは。働きがワクワク、肯定感に繋がれば良いのだが。

・今の活動を続けていこうとしたら無理がある。社会も変わっているので昔と同じ状況でやっていけない。じゃ、これからどう変わっていけるか。変わっていくことを、どう受け止めていけるのか。

・天城山荘は、親しんできた人にとって大事な場所だったのだなと思う。女性連合の天城の総会に行くのは、「お偉いさん」たちが行く場所と思っていたが、色々な方と出会って、同じ方を見上げていることが分かって良かった。あそこに行かなければ得られない事がたくさんあった。機構改革の中で地方連合と女性連合は別物で、祈祷週間の事や宣教師のことも腑に落ちないこともあったが勉強不足だろうと飲み込んできた。地方連合と女性連合がうまく構成的に組み直したらとでもうまくいくのではないかと思う。

・女性連合の役員、実行委員の一部の人で重責を担いながら考え、提案したものに対しては、その人達が決めてくれたのだから、喜んで賛同します。と言うのが、ひとり一人の感覚だったのではないかと思う。コロナ前は、女性連合ではできない事も地方連合でもブロックでも色々な形でよく集まれていた。豊かな交わりができていた。私が欲しいものは、AI が進んでいる社会だが、やはり交わりが欲しい。それを豊かにする意味で IT を活用したら良い。

・大切な事を話すのには、交わりが大事。出会って、たわいのないことも話せるサロンの事対面でも zoom でも小分けにしてできれば良いのでは。コロナも終われば、茶話会、『世の光』の学び会をイベントとして行うなど、選び取って参加できるようにしたら豊かなものになるのではないか。

・一つのサロンから、自発的にしたいことが生まれ小分けになっていければ良いのだろ。

・知らないところで決まっていくこと、一部が決めてやっていきましょう、というのはバプテストとして違うのだらう。地方連合などでも、これまでなかった働きが生まれてくるように、この「ひろば」も後々そうなら良いのだが。

・みんなが見える、理解できる働きだと、応援したい、互いに力になれるのではないかという事を話し合えたりできるのだらう。しかし今、やることを絞っていく事が大事な時期。冷静な知恵出し合い、知恵を絞りあって大変な時期を何を減らしていくのかと言う話を冷静にしなければならぬ。それは、大きな組織でなく、小分けでどんなことが話し合われているのか聞きながら話し合わなければならぬのだらう。

・「ひろば」がそういう場になれば良いのだらう。皆からアイデアをいただきながら進めていければ良いのだらう。次の世代に自信を持って何を伝えたいのか、どのようにしていけば良いのか、皆で考えたい。

・今私の教会でも組織改革をしているが、これまでやってきたことが立ちゆかなくなるかも分からないが、若い人たちが子育てしながら、仕事をしながらでも生き活きとできることを構築していくことを見守る事が大事。中心にいた人たちも手を出さずにいき、若い人たちを信頼していく。その構築したものが次の時代の人たちの組織になっていくのだろう。

女性連合でも若い人たちと高齢の人たちとの交わりがあれば、何が負担で削っていけば良いのか、若い人たちから色々アイデアは出ると思う。でも、これまで女性連合が立ち上がったっていった時のことを知らない人たちは、そこにどんな祈りがあって、何を培ってきたのか、知る必要があると思う。そうすると、若い人たちも何を大切にしながら構築していかなければならないのか、良い材料になるのではないか。

・新たなものを作ろうとするとき、伝統を引きずっているところではいけない。それは欠けているとか、そうでない方向に行くと何もできなくなるのだろう。着ぶくれしてしまったものをどのように下ろすかを考えなければならないのだろう。

・女性会を必要としていない人がいると思う、その人達がどう興味をもってくれるか。一部の人たちだけが盛り上がるので良いのか。

・この会(ひろば)では、対話がない。学びになるが、聞くばかりで自分たちの意見を交わし合いたい。ブレイクアウトルームに分かれて話し合うとか、言いたいことを言いあい交わりを持って行きたい。「ひろば」でどのようなかたちにしたいか、その様なアイデアを教えてください。

・宣教師を送ると言うことは、直接の目標だったが、団体としての喜びは、交わりとエンパワメントにあったのかなと思う。女性連合の本質は、そこにあったのでは。